

その土地は肥えていて農作物が良く育つように見え、少しですが粟の畑がありました。前もって私たち一行がここに来るのを知っていたので、私たちが到着するとすぐに粟団子をつくつてふるまつてくれました。その作り方は粟をついて粉にしたものにウバユリの根のでんぶんを合わせて杵でつき、その中に鮭の卵を入れて丸めて団子にしてゆで上げたものです。私にはそのまま出してくれたのですが、アイヌたちにはこれを魚の油で揚げて出していたので、そちらも食べさせてもらつたところ、とてもおいしいものでした。

ここを出発してトウロ、幕別川河口、ライベツそして辺



**ウバユリ**  
アイヌの伝統的な保存食。ユリの仲間で、花が咲く前に球根を掘り、でんぶんから団子をつくる。

りに人家が8軒あるフルケシで、この辺りの地名をチヨダというそうです。ここを過ぎてセラロシヤムを越えましたが、この辺りは両岸とも平地が続いています。止若から約3.9キロでやがて幅18メートル余りの利別川の河口に到着しました。流れはますますゆるやかになっています。

この川は十勝川第1の支流で川筋には27軒の人家が点在しています。20キロメートルほど上流では流れはふたつに分かれしており、右を釧路領、足寄川沿いにアイヌの家が13軒あり、その源流は雄阿寒、伊由谷の2つの高い山にあります。左は本流で源流は陸別、ウペペサンケ、クマネシリなどの山々にあります。ということは、この上流は常呂川、網走川、釧路の舌辛川などの上流にも近いということになります。

この辺りの十勝川本流筋を行くと東南東、南南東、南の三方向に向かつて進路をとることになります。ただ、この辺りの流れは、まるで竜か蛇のように曲がりくねっています。ここを過ぎてチシネライ川、十弗川、オンネナイに人家が2軒あり、ニウシベツへと進むと、両側に少し山並み